

笑顔は私たちの守り神



13

今月の人

あせらず・ゆっくり・楽しく・誠実に

島袋加代子さん

毎週金曜日、市役所の玄関脇で元気よく販売活動を行っているはごろも福祉作業室の皆さん。その中で、やさしい笑顔で皆さんを見てくれるお母さんがいらっしゃいました。

お母さんの名前は、はごろも福祉作業室の室長、島袋加代子さん。平成十二年八月に自宅を開放し、障がい者が将来安心して楽しい生活を送れるよう、自活と社会参加に向けての訓練と就労を与える場として作業室を開室しました。

現在、利用者は男性五人、女性六人の計十一人で、年齢も十八歳から三十七歳と、障がいも異なる皆さんが活動しています。活動にあたっては、島袋さんの二人の娘さんとボランティアの皆さんが手伝ってくれていますが、自宅を開放しているため、下の娘さんの部屋も作業室になってしま

まったとのこと。それでも島袋さんは、

「利用者の子達が家族のように自分の生活に関わってもらったみたいで、よかったと思っています。中には、お母さんとかママなんて言ってくれる子もいますよ」

と嬉しそうに話してくれました。そんな島袋さんに、開室してこれまで苦しかったことや悲しかったことを聞いてみました。すると、

「全然無かったですね、自分が楽しみたいっていう施設を作りましたから、逆にこの子達にエネルギーを分けてもらって、感謝しているくらいですよ」という答えが返ってきました。そして、

「癒しの時代といわれている現代は、この子達の時代になんです。私は、この子達の内なる宝物や笑顔に癒されています」と話してくれました。

ただ当面の問題は、夏休みになると養護学校の生徒が入ってくるので、施設が狭いことであり、また、市民の皆さんにもアルミ缶のリサイクル作業など作業室の活動にご協力をお願いしたいとのことでした。

人間の修行の場としての授産施設を作るため、早く法人化するこれが目標ですと、熱く語ってくれた島袋さん。

ほんとうにすてきな笑顔の加代子お母さんと作業室の仲間の皆さんでした。



グングワチグニチーで「厄払い」

茶

ぐわいゆんだく

25



今年五月三十一日が端午の節供(旧暦五月五日)にあたります。現在では新暦五月五日がごどもの日として、私たちの生活に定着していますが、以前は「グングワチグニチー」と呼ばれ、年中行事のひとつでした。

このグングワチグニチーは中国から伝わったといわれ、その目的は厄を払うこととして、宜野湾市でも行われていました。この日は家庭で麦雑飯(ムギゾコメ)とアマガンを作り、仏壇(ブツダン)に供えました。その際に用いるお箸は、菖蒲(ショウブ)の葉で作ったそうです。菖蒲はその芳しい香りと、剣のような形から厄を払うと信じられ、胃腸が弱い人は腰に巻いたりしました。大山では、頭痛には頭や耳に巻いたそうです。

グングワチグニチーに使う菖蒲の葉は、本来、黄緑色の花を棒状に咲かせるもので、紫色の花を咲かせる花菖蒲とは異なりますが、どちらも使われたようです。今年菖蒲を使ってグングワチグニチーを迎えてはいかがですか？



黄緑色の花を咲かせる菖蒲(サトイモ科)



紫色の花を咲かせる花菖蒲(アヤメ科)

※写真はいずれも大山で撮影

◎「宜野湾市史」への問い合わせ

教育委員会文化課 ☎ 八九三ー四四三一